

横浜こどもホスピススロジェクト

Vol. 5 July 2020

運営していくための資金集めが こどもホスピスの一番の課題

NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト 代表理事 田川 尚登

いつもご支援をいただきありがとうございます。

今年は2月11日に第2回世界こどもホスピスフォーラムを開催しました。ちょうど、横浜の港に停泊していたクルーズ船で新型コロナウィルス集団感染が発生し注目され始めた時期でした。今年はファンドレイジング(運営資金調達)をテーマにして、英国マンチェスターと中国・長沙社社のよこどもホスピスプロジェクト代表理事・の公益社団法人ととものホスピスプロジェクト代表理事・鵜尾雅隆さんなどともに、制会代表理事・鵜尾雅隆さんなどとともにである。場合で表現しないこどもホスピスの大きな課題では、制度の理念を地域の方へ浸透させている。また、支援を受けるためにどのような努力をされているかなど、様々なヒントをいただきました。

現在は、予定地の決定を受け施設の設計をすすめているところですが、昨年も実施したお子様を亡くされたご遺族のアンケート調査から沢山のことを学ばせていただきました。特に終末期において親や子どもが望むこととして多かったのが「親子で一緒にお風呂に入りたかった」「一緒に家族で温泉にお泊りに行きたかったけどバリアフリーの宿が見つからなかった」といった声でした。そこで、施設の特徴として「家族で入れるお風呂」を作ろうということになりました。1階は相談室、キッチン、ダイニングルーム、多目的ホール、事務室などで、2階は個室3部屋、大きな岸のよりまでで、2階は個室3部屋、大きな岸のよりまでで、2階は個室3部屋、大きな岸のよりまでで、1番をでは、までにより地である。1階は相談である。1階は個室3部屋、大きなりまでで、1番をでは、100円でするでは、100円で

の寄付が集まっていますが、今後の運営資金も考 えると建設費にも制限がかかります。ちょうど READYFOR というクラウドファンディングサー ビスと抗がん剤の開発をしている大鵬薬品工業株 式会社様がマッチングして資金集めをするプロ ジェクトの募集があり、お風呂の建設費用として 応募したところ選考されました。多くの方々がプ ロジェクトに共感してくださり、最終的には大鵬 薬品工業株式会社様より300万円、一般寄付が 700万円超、合計約1千万円超が集まりました。 また、アメリカ・サンフランシスコに本社がある 建築設計・インテリア総合デザインの Gensler 社 様がプロボノ支援として1階のインテリアデザ インなどを手掛けてくださることになりました。 さらに、株式会社コロナ様からは家族用にミスト サウナを、一般財団法人健康とアートを結ぶ会様 からは福祉車両をご提供いただける予定です。

寄附で設立運営をしていくことは困難も伴いますが、こうしてさまざまな企業・団体が支援に名乗りを上げてくださり、皆様の思いの込められた施設が出来上がっていくことの喜びをかみしめながら、2021年夏頃の施設の完成を目指しています。

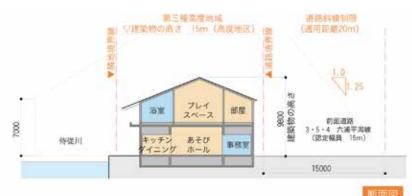


第2回世界こどもホスピスフォーラム

進捗状況 ご報告

新型コロナウィルス感染症によって各種イベントが中止や延期になる中、来年夏頃の完成を目指して施設設計に関する作業は着々と進んでいます。平素より活動を支えてくださっている正会員の医師、看護師、作業療法士、保育士など専門職の方々、横浜市立大学の佐藤朝美研究室の先生方に設計担当の岡田新一設計事務所・津嶋さんチームが複数回ヒヤリングを行い、様々な視点のアドバイスを設計に反映させる作業を行っています。

Although we have been obliged to cancel or postpone some of our events and seminars due to COVID-19, we are managing to keep our construction plan on schedule. Our team from Okada Architect & Associates are working together with doctors, nurses, occupational therapists, hospital play specialists, and Yokohama City University Nursing Course, to reflect their advices into the floor plan of the children's hospice.





利用者の家族同士が触れ合う場所 として地域のコミュニティにも開 放し、生命を脅かす病気の子ども と家族の生活を理解してもらう場 所として整備。できるだけ開放的 にして家具やパーテションでコー ナーをつくり、将来の変化に対応 する空間構成とする。

2階 くつろぎエリア

利用者がゆったりとくつろげる居室を3室配置。水辺沿いの浴室は医ケア児も安心して利用できるようなしつらえとする。中央のブレイスペースは、天井の高い開放的な空間。



1階は交流エリア、2階は個室3部 屋、大きな浴室、そしてゆったりと くつろげるスペースを設ける予定です。 さらに、大きな力となった援いた GENSLER 社からプロボノ支援アの はしてもいたことです。私たちの日 はただいたことです。私たちに深っしたださもホスピスの在り方に深っ すことださり、エネルギッシュも が動き出てくだれるといるか、本当に楽しみです。

The first floor will be an open-space common area and the second floor will have three bedrooms, a big bathroom, and a spacious hall where the families can rest and relax. We have been very lucky to have the pro-bono support from GENSLER for the interior design of the first floor. We now have an energetic and fun team of people, who share our vision. We are truly honored and look forward to working together with the team.





GENSLER 社よりメッセージ

ゲンスラー・アンド・アソシエイツ・インターナショナル・リミテッド 小孫さやか キャシー・イースター

「すべての瞬間を楽しんで生きることをみんなで支えて叶えたい」という、横浜こどもホスピスの皆様の取り組みに感銘をうけたゲンスラーの有志が集まり、プロボノ支援という形で内装デザインを担当させていただきました。家族の愛、自然の心地よさ、日々の安心を仲間と一緒に感じられる場所とコミュニティーをつくるために、"live in harmony"というコンセプトを掲げてデザインを進めております。

横浜こどもホスピスにかかわるすべての人々が、楽しみながら安心して生活できること、そしてそれをサポートするコミュニティーづくりを手助けすることができればという願いをこめてデザインしました。

最後になりますが横浜こどもホスピス設立にかかわる機会をいただきまして大変ありがとうございました。

Message from GENSLER

Sayaka Komago Cassie Easter Gensler and Associates/International,Ltd.

We at Gensler are delighted to be contributing our interior design services pro-bono to the Yokohama Children's Hospice Project. The vision is for the hospice to be a community and place that supports families to enjoy every moment in their lives. To realize this, we came up with the design concept "live in harmony" to make the hospice a place where you can feel love of family, beauty of nature, and peace of mind everyday with your friends.

Our ultimate hope for the design is for everyone who visits Yokohama Children's Hospice to feel relaxed and have fun, in order to foster a supportive community environment.

We are grateful to be involved in this wonderful opportunity.

ゲンスラーについて

ゲンスラー・アンド・アソシエイツ・インターナショナル・リミテッドは建築、デザイン、マスタープランニングおよび戦略的コンサルティング業務の分野における総合デザイン会社です。 1965 年にサンフランシスコで創業し、現在は世界 50 カ所の事務所に 6,000 人以上のスタッフを擁し、3,500社以上のクライアントにサービスを提供しています。会社創業以来 50 年以上にわたり、クライアントファーストの視点で質の高い空間造りのパイオニアであり続けています。

About Gensler

Gensler is a global architecture, design, and planning firm with 50 locations and over 6,000 professionals in Asia, Europe, the Middle East and the Americas. The firm has over 3,500 active clients in virtually every industry and delivers projects as large as a city and as small as a task light for an individual's desk.

Gensler is distinguished by an unwavering commitment to our clients' success. Everything we design, from the innovations we imagine to the value we deliver, reflects our clients' priorities and their opportunities for sustained success.

ゲンスラー東京オフィス



2019 年度 の活動から

サンタクロース訪問事業

待ちに待ったクリスマス! 2019 年度も沢山のプレゼントを携えて横浜市大附属病院小児科にサンタクロースをご案内しました。興奮いっぱいの子どもたち、笑顔輝くご家族の様子にサンタクロースも嬉しそうです。ご協力いただいた株式会社ダッドウェイ様、金沢マリンライオンズクラブ様に深く感謝申し上げます。

サンタクロース訪問

横浜市立大学附属病院 チャイルド・ライフ・スペシャリスト 石塚 愛

「メリークリスマス!」「サンタさんが来た~!」赤い服を纏ったサンタが部屋を訪れ、子どもたちと家族の顔に浮かんだ一瞬の驚きの表情は、すぐに弾ける笑顔へと変わっていきました。クリスマスは入院中の子どもたちにとっても大イベントですが、治療のため自宅で家族とクリスマスを過ごせない子どもたちも多くいます。今回はサンタ訪問をより特別な時間にしたいと思い、ご家族のみに事前にお伝えし、子どもたちにはサプライズにすることとしました。サンタからプレゼントを手渡されると、ある子は待ちきれない様子で受け取ってすぐに開けはじめ、ある子は恥ずかしそうにでも嬉しそうに手を伸ばして受け取っており、アテンドで一緒に回っていた私も心が温かくなりました。病院での特別な経験は、治療を頑張る子どもたちに前向きに進む力をたくさん与えてくれます。そして、子どもたちの笑顔は、一緒に治療を乗り越えているご家族にとって何よりのプレゼントになったと感じます。

素敵なイベントを企画していただき、ありがとうございました。

Santa's Visit

Ai Ishizuka Child Life Specialist, Yokohama City University Hospital

When Santa, in his red suit, entered the room, the surprised faces of children and families instantly changed in to big smiles of joy. Christmas is a major event for children in the hospital. However, because of treatment, many of them cannot spend that special holiday at home with their families. This year, to make Santa's visit even more special, we decided to surprise the children. Only the parents knew about Santa coming to the hospital. When he gave out the presents, some children opened them right away, and some reached out to receive them with a shy but happy smile. The event warmed my spirit and my heart. For children going though treatment, such a special experience at the hospital gives them strength to move on. I feel that the big smiles on the children's faces are the best present for the families going through the treatment with their children.

Thank you for having such a wonderful event.





独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 小児在宅移行のための多職種連携勉強会

小児在宅医療の目的は、重い病気や障がいのある子どもひとりひとりが家族の絆、地域の繋がりのもとで、それぞれが持った「いのち」の可能性をできる限り発揮して、生ききることができる社会を実現すること。医療、福祉、行政、家族、垣根を取り払って一緒に考えよう。2019年度の多職種連携勉強会は医療法人社団オレンジ理事長・紅谷浩之先生と医療法人ゆうの森たんぽぽクリニック・大藤佳子先生にご登壇いただきました。





大藤佳子先生

紅谷浩之先生

「小児在宅移行のための多職種連携勉強会」 ~福井県と愛媛県の取り組みとポジティブヘルス~

一般社団法人がんサポートナース 代表理事 片岡 幸子

以前から、横浜こどもホスピスプロジェクトさん主催の研修には何度か参加させて頂いていて、昨年、「小児緩和ケア人材育成プログラム」も修了証を頂きましたが、今回の勉強会も在宅を支える人材にとってとても 勉強になる内容でした。

愛媛県のたんぽぽクリニックの医師である大藤佳子先生からは「在宅療養支援診療所における小児在宅医療の現状と課題」についてのお話しで、患者さんが自分らしく生きることを支えながら、一人一人との出会いと学びを次の人に生かしていく活動をされていて、とても感銘を受けました。

福井県のオレンジホームケアクリニックの紅谷浩之先生は、在宅を支える上で、「家を病院化しないこと」「生活を邪魔しない医療」「看護師が親を洗脳するのではなく、一緒に悩み、葛藤することが大切」「人は、人から助けてもらうことで人生が豊かになる」・・というような大切な心構えを沢山教えていただきました。

講義を聞きながら、先生方が大切にしているものが、まさに、私が目指しているものでしたので、とても腑に落ち、同時に背中を押されているようでした。

いよいよ来年の夏には、横浜にこどもホスピスが完成します。沢山の御家族が安心して過ごせる場所で、今後、少しでもお手伝いが出来ればと思っています。

Interprofessional Study Session on Transition to Home-based Pediatric Care Initiatives in Fukui and Ehime Prefectures and Positive Health

Sachiko Kataoka,

President, General Incorporated Association of Cancer Support Nurses

I have participated in several trainings and study sessions organized by the Yokohama Children's Hospice Project, and last year, I received a certificate of completion for the "Pediatric Palliative Care Human Resource Development Program." The study session I attended this time was very instructive for people who give home care support.

Dr. Yoshiko Ootou, a physician at the Tampopo Clinic in Ehime Prefecture, gave a presentation entitled "Current situation and challenges of home-based pediatric care in home care support clinics". I was impressed by how she supported patients wanting to live their lives as they chose, and how she learned from each patient and made good use of those experiences to improve the care for new patients.

Dr. Hiroyuki Beniya of the Orange Home Care Clinic in Fukui Prefecture gave us many important ideas for home care support. His advices included the followings: (1) a home must not become a hospital, (2) nurses should place importance on struggling and worrying together with the parents instead of putting their own personal agendas first, and (3) a person's life becomes enriched when they receive help from others.

As I listened to these lectures, I realized that what the presenters valued was exactly what I was trying to achieve. I absorbed their words and felt encouraged.

The Children's Hospice in Yokohama will finally be completed next summer. I would like to provide support as best as I can to help the hospice, where many families can spend time in peace.

2019 年度 の活動から



かながわボランタリー活動推進基金 21 協働事業負担金対象事業 第 2 回世界こどもホスピスフォーラム in Yokohama

2019 年度の最後のイベントは、「第2回世界こどもホスピスフォーラム in Yokohama」。私たちの目指す「こどもホスピス」は、医療・福祉・教育制度の狭間にいる子どもと家族に友として寄り添う「第2のわが家」。制度には依拠せずに、寄附をもとに社会で支える在宅療養生活支援施設を目指しています。安定した運営を支える資金調達方法とは?地域の巻き込み方は?昨年もお招きしたフランシスハウスこどもホスピスの代表者に加え、今回は中国でこどもホスピスを設立し小児緩和ケアの普及に力を注ぐリンダ・グールド氏にもご参加いただくことができました。



リンダ・グールド氏

第2回世界こどもホスピスフォーラム テーマ「運営資金獲得と地域との関わりについて」

リンダ・グールド MBE(大英帝国五等勲爵士) バタフライこどもホスピス CEO および共同創業者 国際小児緩和ケアネットワーク(ICPCN)副理事長

今回このシンポジウムにご招待いただき、日本を初めて訪れることができました。到着した日は冬の空が青く澄み渡り、車窓から雄大な富士山の姿を眺めながら空港から会場へと向かいました。

シンポジウムには多くの参加者が集まり、登壇者も 含め皆さんが他のこどもホスピスの経験から学び、日 本の現場にどう活かしたらよいかを考えたいという意 欲に溢れていました。

このような場で、中国でバタフライこどもホスピスを立ち上げた経験をご紹介する機会をいただき大変光栄に感じました。僅かな資金と決意だけを頼りに、ほぼ何もないような状況からこどもホスピスを始め、資金調達をし、活動を展開してきた、試行錯誤の道のりでした。

私達の取り組みの中で特に参加者の関心を集めたのは、「crib sponsorship(ベッド1床分の年間運営費を支援する)」の仕組みでした。また、日本で寄付や資金調達をすることの難しさや資金援助をダイレクトに依頼することの難しさなどについても議論されました。

こどもホスピスの発展に情熱を持って取り組む田川 さんとボランティア・チームの皆さんにお会いして、とても感銘を受けました。そして、夢が現実となろう としている建設予定地にもご案内いただき、本当にワクワクしました。

バタフライこどもホスピス、そして国際小児緩和ケアネットワーク (ICPCN) との絆が今後も続くことに期待しています。お互いの経験を共有しながら、2021年の開設を目指し尽力する横浜の皆さんを応援していきたいと思います。

The 2nd World Children's Hospice Forum "Fundraising and Community Participation"

Lynda Gould MBE Founder/Chair - Butterfly Children's Hospices Vice-Chair ICPCN

Participating in this conference was my first visit to Japan – blessed by lovely clear winter skies and wonderful views of Mount Fuji on the way from the airport.

The conference was well attended and buzzing with delegates eager to learn and think about how to apply the experience of others into the Japanese setting.

I felt privileged to be able to share my experience of starting the Butterfly Homes in China and how we raised funds, reflecting on the learning from how we started services from almost nothing, with a small amount of funding and a lot of determination.

Participants were interested to hear about crib sponsorship in particular, and we discussed the challenges to raising funds in Japan and the issues around asking for money directly

Meeting Mr Tagawa and his team of volunteers was inspirational, people passionate about the future and very exciting to see the site where the hospice dream will become reality.

I am hopeful that the relationships established with Butterfly Children's Hospices and ICPCN will be on-going, to be able to encourage and share experiences with these remarkable people as they work towards their goal of opening in 2021.



クラウドファンディング READYFOR SDGs × 大鵬薬品

当団体は、持続可能な開発目標(SDGs)のゴール3「すべての人に健康と福祉を」に貢献する活動を実施しています。2019年12月、大鵬薬品工業株式会社とREADYFOR 株式会社がタッグを組んで展開した法人向けSDGsマッチング事業「READYFOR SDGs」のクラウドファンディング(オンライン寄付)に応募し、「がん領域の課題に挑戦する」プロジェクトとして採択され、3か月間で総額約1千万円のご寄附をいただくことができました。クラウドファンディングで集まったご寄付は、これから建設するこどもホスピスの目玉ともなる大きな浴室関連工事費の一部として利用させていただきます。活動に賛同してくださった多くの方々に深くお礼申し上げます。

大鵬薬品は、「私たちは人びとの健康を高め 満ち足りた笑顔あふれる 社会づくりに貢献します。」という企業理念のもと、約半世紀にわたり、抗がん剤の研究開発につとめてまいりました。

現在、2人に1人ががんになると言われる中、「がん」を取り巻く課題を解決しようとする方々と、その活動を応援される支援者さんの共通の「夢」を実現できるようサポートしたいとの想いから、企業参加型のクラウドファンディングに参画しました。

そこで出会ったのが、横浜こどもホスピスプロジェクトさまでした。全国的にも小児緩和ケア施設が数カ所しかないことを知り、重い病気と闘う子どもたちとそのご家族に、笑顔と思い出を創り、夢を育み護る場所を創りたいという想いに共感しました。

クラウドファンディング実施中には、支援者さんた ちからのメッセージを拝見し、胸が熱くなりました。 改めまして、微力ではございますが、応援させていた だけることを光栄に思います。

スヌーズレンを整備した浴室が完成し、子どもたちとご家族にとって安らぎと最適なリラクゼーションの空間となり、特別な時間を過ごせるよう願っています。子どもたちとご家族が「笑顔」になりますよう、心よりお祈りしています。

大鵬薬品工業株式会社 ストラテジックコミュニケーション室 柴千香子 田中せり 柴田幸恵 "We strive to improve human health and contribute to a society enriched by smiles."

This is the corporate philosophy of TAIHO PHARMACEUTICAL COMPANY, LTD., based on which we have been researching and developing anti-cancer drugs for almost half a century. Today, it is estimated that one in two people will develop cancer.

We participated in READYFOR corporate crowdfunding campaign in the hope of helping those who are trying to solve the issues surrounding cancer and those who support their activities to realize their shared dream.

That is how we came to know of Yokohama Children's Hospice Project. We learned that there are only a few pediatric palliative care facilities in Japan. We appreciate the project's endeavor to create a place where children battling serious illnesses and their families can always smile, have happy memories, and nurture their dreams.

During this crowdfunding, we were very moved by the messages from project supporters. Although it may be a small force, we are honored to be part of the supporters.

With the completion of the big family bathroom with sensory Snoezelen environment, we hope this will be a space for great peace and relaxation for the children and their families, and that the time spent there will be very special.

We sincerely wish that this would bring happy smiles to their faces.





かながわボランタリー活動推進基金21協働事業負担金対象事業 「希望としあわせをシェアしよう♪」

『望としめわせをシェアしよフ』_』 オンラインキャンペーン!!

「こどもホスピス・フェスティバル」のイベントを企画していましたが、残念ながら新型コロナ感染症の拡大を受けて中止を余儀なくされました。そこで、急遽開催することになったオンラインでの応援キャンペーン。

ご自宅や入院先で頑張っているお子さんたち、きょうだいさんたち、そしてご家族を希望の「虹」としあわせの「四つ葉のクローバー」で応援しよう! お陰様で沢山の方にご参加いただきました。

沢山の投稿の中から選ばれた作品がオリジナルカードになりました!こちらのハガキはチャリティポストカードとしてイベント等で販売させていただきます。たくさんの皆様に希望としあわせが届きますように・・・。

【希望としあわせをシェアしよう♪キャンペーン】 に参加して

BACK HOME project 原田 悠平

自宅や入院先で頑張っているお子さんや、きょうだい、そしてご家族の力になればと、私達家族も参加させていただきました。

我が家の末娘は当時、生後9ヶ月に難病を発症 し4年間の闘病生活の末、4歳7ヶ月で空に還り ました。

難病のお子さんを持つご家族は入院時も在宅時も変わらず、1日中医療ケアに追われる日々が続き、「孤軍奮闘」を強いられています。

我が家が厳しい状況の中、娘を看取る最後まで 家族一丸となって頑張れたのは、同じく難病と闘 うご家族、医師や医療従事スタッフ、そして知人 友人、周りの方々が、娘の病気を含め「小児医療 の現状」を一緒になって考え、私達家族を支えて くれたお陰です。

「私達も一緒に考えて、何かあれば助けるからね」 と後ろから支えてくれていた事が本当に嬉しかっ たです。

自分達だけで闘っているのでは無い、誰かが見守ってくれていると分かると力になります。

今回のキャンペーンが闘病生活を送っているご 家族の心の支えになり、地域の皆が支える小児医 磨に繋がれば幸いです On participating in the "Share Hope and Happiness" campaign

Yuhei Harada BACK HOME project

Our family participated in this campaign hoping to help children, siblings and their families who are struggling at home or in hospitals. Our youngest daughter was diagnosed with an incurable disease at the age of 9 months. After a four-year battle with the disease, she went to heaven when she was 4 years and 7 months old.

Families with children who have incurable diseases are constantly overwhelmed by various medical care, whether at home or in hospitals, and are often forced to struggle alone.

During our own battle, what kept our family united until the last moment of our daughter's life was the support from other families struggling with serious diseases, the medical professionals, and our friends. They supported us in dealing with our daughter's disease and were there to think and discuss about the current situation of pediatric care with us. We remain truly grateful of their encouragement and their willingness to help us whenever we needed them. Knowing that we were not alone and that people were watching over us gave us strength

I would be very happy if this campaign helped to support those who are struggling now and if the campaign would contribute to the development of community-supported pediatric care.



チャリティポストカードでお手紙を書いてくれています





積水ハウスマッチングプログラム こども基金 長期プロジェクト助成事業 こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム

医療的な側面だけでなく、子どもの生活の質(QOL)の向上と家族全体を支える取り組みとして位置づけられるこどもホスピスと小児緩和ケア。今年度からは積水ハウス助成事業として実施できることになりました。新型コロナ感染症が懸念される中、会場の人数を制限し、オンライン受講も初めて導入し、多くの方にご参加いただきました。



ボランティアに参加して

6月20日に開催された「こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム」へボランティア参加して参りました。

小児緩和ケアと言うテーマに対して、医療者・ 教育関係者・家族・サポーター等、様々な立場の 方のお話を聞く事が出来、私自身とても大きな学 びと気づきを得る事が出来ました。

積水ハウスマッチングプログラムは、従業員が 給与から希望する金額を積み立て、それに会社が 同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。毎年 100を超える団体から応募がありますが、選考過 程のなかに「従業員投票」があり、今回 NPO 法 人横浜こどもホスピスプロジェクトへ沢山の投票 が集まり、無事助成団体に選ばれました。

横浜こどもホスピスプロジェクトが掲げる、支援が必要なこどもたちを対象とした居場所づくりに、社内から多くの共感が得られた結果だと感じております。

引き続き、イベントやボランティア活動への参加を通じて、社会的課題の解決や新しい価値の創造に向け、スタッフの皆さまと共にチャレンジしていきたいと思います。

積水ハウス株式会社 横浜北シャーメゾン支店 清水 敏明



Participating as a volunteer

Shimizu Toshiaki Sekisui House Ltd., Yokohama Kita Sha Maison Station

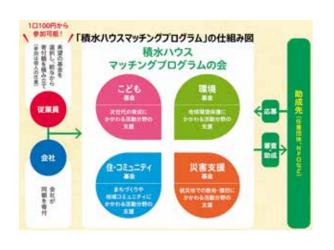
On June 20th, I had an opportunity to participate in the "Children's Hospice - Pediatric Palliative Care Human Resource Development Program", as a company volunteer.

People with different background, such as health care providers, educators, families, and supporters, gave lectures on pediatric palliative care from their own perspective. This was an excellent learning experience and made me realize the things I had been unaware of until now.

The Sekisui House Matching Program has a structure to allow employees to set aside a certain portion of their salaries for social assistance. The company then adds the same amount as a matching grant to support valued organizations. Employees then vote to select the organization that will receive the grant. More than 100 organizations each year apply for this grant.

This year, Yokohama Children's Hospice Project achieved numerous votes and was selected as the long-term grant recipient. Their project goal to create a place for children in need of support resonated in many Sekisui House employees.

We would like to continue working with the project staff to resolve social issues and create new values through participating in events and volunteer activities.



令和元年度事業報告書(2019/4/1~2020/3/31)

①小児緩和ケアに関する実態調査や啓発及び普及活動

支出額:11,638,745円 ア こどもホスピス啓発イベント

内容: こどものいのちの講演会とコンサートの開催

日程: 令和元年 11 月 23 日

場所:はまぎんホール・ヴィアマーレ

人数:30人/参加者250人

第2回全国こどもホスピスサミット in 北海道

日程:令和元年7月14日 場所:札幌国際ホール 人数:20人/参加者120人

第2回世界こどもホスピスフォーラム

日程: 令和 2 年 2 月 11 日

場所:はまぎんホール・ヴィアマーレ

人数:45 人/参加者 200 人

こどもホスピス普及活動

内容:小児病棟へのサンタクロース訪問

日程: 令和元年 12 月 24 日

場所:横浜市立大学附属病院小児科

人数:5人/対象者50人

オ 実態調査

内容: 小児がん患者の遺族を対象としたアンケート調査

日程:通年 場所:全国

人数:職員2人、横浜市大看護学科調査チーム

対象:50 家族

②小児緩和ケアに関する人材の育成に関する事業

支出額:7,573,416円

ア 小児緩和ケアに関する研修会(『病児と遊びの研究会』)

内容:小児緩和ケアに関する疾病別のこどもを持つ親の講演 と病気や障がいがある 子供との遊び方の研修など **日程**:令和元年6月9日、7月27日、8月12日、9月7日、10月19日、11月2日

(全5回講座とワークショップ1回)

場所:横浜市内会議室

人数:講師 2 人 (x5 回)、職員 2 人、ボランティアスタッフ

5 人 / 参加者 171 人

<u>イ こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラムの構築</u>

内容: 小児緩和ケアを体系的に学ぶカリキュラムを開発し、

研修を行う。

日程: 令和元年 6 月 22 日~ 23 日(横浜)、7 月 15 日(札幌)、 10月26日(福岡)、11月10日・12月8日・令和2 年1月18日(松山)、11月17日(仙台)

場所:横浜市内、札幌市内、福岡市内、松山市内、仙台市内

の会議室

人数:講師7人、職員2人、ボランティアスタッフ50人

参加者 243 人

ウ 多職種連携勉強会

内容:命を脅かす病気の子どもや家族が直面する課題(障害 者手帳など福祉制度、病児学習支援)政策担当者(厚 生労働省職員)を呼び、市役所などの行政の窓口担当 者と制度利用をする患者家族、医療、介護関係者など

と勉強会を開催。

日程: 令和 2 年 1 月 18 日

場所:市内会議室

人数:講師2人、職員2人、ボランティアスタッフ3人

参加者 51 人

2020 年度事業予定

神奈川ボランタリー活動推進基金 21 負担金事業・WAM 助成金事業・積水ハウスマッチングプログラム助成金他

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 小児緩和ケアに関する実態調査や啓発及び普及活動 こどもホスピス啓発及びファンドレイジングイベント

内容:こどもホスピスと小児緩和ケア講演会とコンサートの

開催と啓発冊子制作 **日程**: 令和 2 年 7 月 4 日

場所:市内ホール

※コロナで緊急事態宣言の影響で開催できず中止と決定。

第3回世界こどもホスピスフォーラム

内容:国内外のこどもホスピスの取り組みを共有するシンポ

ジウムを開催する。

日程:令和3年2月14日開催予定

場所:市内ホール

ウ 第3回 全国こどもホスピスサミット in 福岡

内容:全国のこどもホスピス関係者を招聘し、国内のこども ホスピスの取り組みを共有するシンポジウムを開催す

る。

日程: 令和3年2月20日開催予定

場所:福岡市内ホール

エ こどもホスピス普及活動

内容: 小児病棟へのサンタクロース訪問

日程: 令和2年12月24日予定 場所:横浜市立大学附属病院小児科

オ 小児緩和ケア教本作成

内容: 小児緩和ケア人材育成プログラム用教本づくり

日程:通年 場所:事務所 ②小児緩和ケアに関する人材の育成に関する事業 ア 小児緩和ケアに関する研修会(『病児と遊びの研究会』)

内容:小児緩和ケアに関する疾病別のこどもを持つ親の講演 と病気や障がいがある子供との遊び方の研修など

日程:年度内4回 令和2年8月1日(中止)、11月10日、

他未定

場所:横浜市内会議室

イ こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラムの構築

内容: 小児緩和ケアを体系的に学ぶカリキュラムを昨年に続

き同じ内容で各地で開催する。

日程: 令和 2 年 6 月 20 日 (横浜)、9 月 20 日 (高松)、

10月11日(旭川)、11月29日(名古屋)

場所:各地会議室

ウ 多職種連携勉強会

内容:命を脅かす病気の子どもや家族が直面する課題(障害 者手帳など福祉制度、病児学習支援)政策担当者(厚 生労働省職員)を呼び、市役所などの行政の窓口担当 者と制度利用をする患者家族、医療、介護関係者など と勉強会を開催する。

日程:年1回(令和3年1月予定)

場所:市内会議室

エ 小児緩和ケア共同研修会

日程: 令和2年8月・令和3年3月予定

場所:TSURUMI こどもホスピス

③その他事業

ア 施設計画策定

内容:こどもホスピス事業計画と施設開設に関わる準備活動

場所:事務所、市内会議室等

イ 施設建設

内容: こどもホスピス建設

日程: 令和2年11月下旬頃開始予定

場所:金沢区六浦東1丁目

ご寄付一覧

(順不同・敬称略)(2019年12月~2020年6月末)

ご支援、ありがとうございました

【会費・寄付によるご支援者】

NPO 法人 Umi のいえ ON THE DISH / 青柳充彦 / 浅木紗綾子 / 足立千晃 / アフラック横浜総合アツシエイツ会 / 荒川恵美子 / 安藤弘子 / 飯田駅子 / 飯田展久 / 飯野幸久 / 家坂/守/ | 本地田龍子 / 一般社団法人横浜薬剤師会 / 伊藤秀一 / 稲部澄子 / 北田龍子 / 上野裕子 / ヴェノクリニッグ / ウェメクリテチズスコ株式会社 / 内村慎史 / 内山麗子 / 梅崎亜衣子 / 大久保照子 / 大嶋博之 / 大津雅弘 / 大塚俊明 / 大平美保子 / 大森まなみ / 大家さん向上幸代 / 大山行雄 / 岡田英明 / 岡部佳代 / 沖野和工 / 尾崎茂子 / 小瀬村 / 東京会 / 大小衛子 / 大森まなみ / 大家さん向上 / 大りた倉が生人 | 勝川由達 / 学校法人大塚平安学 | 下記念幼稚園 / 大学生く / 大森まなみ / 大家を合子 / 大小石柱 / 岡田英明 / 岡部佳代 / 沖野和工 / 尾崎茂子 / 小瀬村 / 尾田政彦 / 松野佐 - 丘崎園 / 金井玲子 / 金子会 - 全人 / 木塚芸会社 / 内村慎史 / 内山麗子 / 梅崎亜衣子 / 大久保照子 / 大嶋博之 / 大津雅弘 / 大塚俊明 / 大平美保子 / 大森まなみ / 大家さん向上 / 東野泰子 / 上倉弥生 / 勝川由美 / 学校法人大塚 平安学 | 扇じトマール | 京念幼稚園 / 大塚生ん丘 | 岩板岩 / 東京会 - 全子会 / 大小石 / スティス - ス 吉川滿雄/吉田賢一・聡

【READYFOR クラウドファンディングによるご支援者】
阿郎りか/阿耶祥子/伊東延校/井手美紅/井田美樹子/井上富子/井上輝/井川さおり/一般社団法人 ReFREL/永井孝幸/永井順子/永井理松/永瀬連士子/中国連校/井手美紅/井田美樹子/井上富子/井上輝/井川さおり/一般社団法人 ReFREL/永井孝幸/永井順子/永井理松/永瀬連士子/東田寺/秋田寺/大郎神子/伊東延校/井手美紅/井田美樹子/東連右代/型本義秀/遠藤布子/横川厚美/横川秀男/横川春樹/岡井谷美/回崎寺/ 阿田新士/ 影唱寺/ 永明電子/ 中国新一次 1918年代、「東京 1918年代、東京 1918年代、東京 1918年で、「東京 1918年代、東京 1918年で、「東京 1918年で、東京 1918年で、東京

田綾/長野英治

/ 及ずたり 4月分より寄附者のお名前・金額などの公表をご希望されても寄附先団体には通知されなくなりました。お礼状をお送りすることが できませんので、ご寄附の際に団体宛にもご一報いただけましたら幸甚に存じます。

【イベント協賛】 株式会社徳建/ウチダエスコ株式会社/株式会社キクシマ/株式会社ありあけ/株式会社安藤建設/株式会社メモワール/大洋建設株式 会社/ひまわり交通株式会社/医療法人横浜柏堤会/医療法人社団スマイルスマイルこどもクリニック/横浜高速鉄道株式会社/株式会 社ヒューマンリソースみらい/横浜サルビア法律事務所/公益財団法人原田積善会/田辺三菱製薬株式会社/北川商事株式会社/株式会 社せんざん/ホンダカーズ神奈川中株式会社

ベーカリーハウスアオキ/スマイルガーデン/ Bravissimo 美容室ブラヴィッシモ/ビィーンズファーム/ヘアーサロンタカキ/壮健堂 治療室/山本助産院/花屋こはな/輿石且子事務所/角田宏子事務所/ Café Bar and Lunch Box SMILE(スマイル食堂) /八景写真館 /八木薬局/ヨコハマホップ/ BAR LUZ/たわわや/菓匠栗山/パブドレミ/大和・綾瀬理容組合/境木地蔵尊

小児ホスピス建設のための支援として認定 NPO 法人スマイルオブキッズにお振込みいただいた場合: 寄付金は当法人のた めに確保されておりますが、個人情報保護の観点から当法人には寄付者氏名の開示がなされません。したがって、こちらに お名前を掲載することができないことをご了承願います。

活動計算書 (特定非営利活動に係る事業会計) 2019 年 4 月 1 日~ 2020 年 3 月 31 日

	合計 (円)
1,838,000	
23,646,877	
13,608,500	
1,093,560	
15,151	
経常収益計	40,202,088
19,212,161	
7,429,694	
経常費用計	26,641,855
E味財産増減額	13,560,233
民税及び事業税	101,521
E味財産増減額	13,458,712
燥越正味財産額	42,141,179
燥越正味財産額	55,599,891
	23,646,877 13,608,500 1,093,560 15,151 経常収益計 19,212,161 7,429,694 経常費用計 E味財産増減額 民税及び事業税 E味財産増減額 異越正味財産額



横浜こどもホスピスを支援するチャリティワインができました!

上質で貴重なワインとスピリッツの輸入販売を手掛ける SARMENT 様とのコラボレーションで、横浜こどもホスピスプロジェクトを支援する「A Bottle for a Smile」プログラムがスタートします!売り上げの 10%を当団体に寄付していただけることになりました。

ワインは南オーストラリアの名門ワイナリー「Hither & Yon」のもの。 今後は、ホテルやセレクトショップ、百貨店など、販売ルートを開拓し ていく予定です。ご関心のある方は、是非、SARMENT JAPAN にご連絡 ください!



横浜こどもホスピスのロゴ入りワイン

SARMENT JAPAN

https://sites.google.com/sarment.com/sarmentjapan-portfolio-jp/



【賛助会員(サポート会員)になって継続的に支援する】

①個人:年間1口5,000円から(1口以上)/②法人・団体:年間1口10,000円から(1口以上)

【寄付で支援する】 自由な金額、自由な回数でご寄付をいただいております。

【振込先】

TEL: 045-274-8686

ゆうちょ銀行振替口座:00260-9-104518 口座名義:NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト

※ ゆうちょ銀行以外の他の金融機関からの振込の場合は、

【ゆうちょ銀行】店名029(ゼロニキュウ)、 預金種目:当座、 口座番号:0104518 口座名義:NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクト

- ※ 寄付等で税額控除を希望される方は、横浜市市民活動推進基金「よこはま夢ファンド」制度をご活用ください。お申込み手続きは「よこはま夢ファンド」のウェブサイトでも可能ですが、ご相談いただければ、申し込み用紙を郵送させていただきます。
- ※ 遺贈の相談も承っております。